

今治から世界旅行へ: 第3カ国目 ラオス

森野雄樹

ミャンマーの後はラオスに行きました。正式名称はラオス人民民主共和国ですが、通称ラオスとして知られています。東南アジアのインドシナ半島に位置しており、北は中国、東はベトナム、西はミャンマー、南はタイ、カンボジアと接しており、ASEAN加盟国で唯一の内陸国です。首都はヴィエンチャンであり、このヴィエンチャンは世界で一番静かな首都とも言われています。

僕はタイ・バンコクから夜行バスでラオスのヴィエンチャンに着きました。まず朝食をと、バスターミナルを出ると屋台が出ており、そのほとんどがサンドウィッチのお店でした。5店位がずらっと並んでおり、味や値段はほぼ同じなので、一番愛想が良いスタッフさんがいるお店で買いました。出てきたのは直径20センチはあるフランスパンに具が盛り沢山入ったサンドウィッチ。ラオスは以前フランスの植民地だったのでパンはとても美味しいです。しかもこれで75円ですから、とてもお得ですよ。あとコーヒーもとても美味しいです。

お腹を満たしたところで、宿にチェックインし荷物を置いて観光です。観光にはレンタルサイクルを借りて街を散策しました。前述したように、ヴィエンチャンは世界で一番静かな首都と呼ばれているだけあり、街自体はとても長閑です。お寺もありましたが、タイの隣国だけあり、外見がタイのお寺に似ていました。街の中心部にはフランスパリの凱旋門に似たパトゥーサイという建物があり、これは戦死した兵士の慰霊塔であります。この周辺はとても整備されていて、観光客も多かったと思います。

続いて行ったのはメコン川です。メコン川はタイとラオスの間にあり、両者の対岸からお互いの国が見ることが出来ます。しかしこの両者の間には経済格差があり、この境については個人的にとっても興味深いものがありました。現在は2国間に友好橋というものができて、車や電車が橋によって行き来ができるため、ヴィエンチャンでもタイの通貨や言語が浸透しています。メコン川周辺も夕方になると、屋台が増えて人も集まり活気がでてきました。家族連れだけでなくカップルも多く、ここは地元の人のデートスポットでもあるようです。

僕は近くのスーパーマーケットでビアラオビールを買いました。このビアラオというメーカーは、ラオスのビールのシェア99%をシェアしており、ラオス国民に大人気のビールです。また東南アジアを旅する人の中では、東南アジアのビールで一番美味しいのはビアラオビールとも言われています。(僕はそうは思いませんが、ビアラオビールもとても美味しいです。)大瓶で100円くらいですからとてもリーズナブルですよ。このビアラオビールを片手にメコン川の夕日を眺めましたが、とてもとても贅沢な感じになりました。

翌日はタイへ戻る日です。タイからラオスまでは夜行バスで来ましたが、タイへ戻るために夜行寝台列車を選択しました。なぜ列車にしたかという、今までの旅ではバスで国境越えは経験したことがあるため、次は列車で国境越えを試みたいと思ったからです。また、日本は島国なので、国境を越えるためには飛行機またはフェリーに乗る必要があるため、バスや列車で国を越えることに昔から憧れを抱いていました。まずラオス側の駅でパスポートに出国スタンプを押され、その後列車に乗り友好橋を越えました。この時知ったのですが、列車が友好橋を通る際、車は通行止めになります。僕はあの瀬戸大橋のように橋の下を列車が通ると考えていましたが、そうではなかったです。そして、幸運にもこの時はサンセットの時間で、再度夕日を見ることができました。川辺からみる夕日もキレイでしたが、橋上から見る夕日もとてもきれいでした。列車はタイ側のノンカーイという駅に着き、パスポートに入国スタンプが押され、その後寝台列車に乗ります。寝台列車が発車してしばらくして、スタッフが座席を倒してベッドを作り、その上ベッドメイキングをしてくれて、素晴らしいベッドが出来上がりました。横になると、思ったより振動も少なく夜行バスよりとても快適です。次からヴィエンチャンに行く際は必ずや寝台列車にしようと思うほどです。朝6時くらいに最終地であるバンコクの駅に着きました。ヴィエンチャンから来たため、バンコクはとても大きな都市に感じました。このラオスを訪れたことから、バンコクのような発展した都市も良いですが、ヴィエンチャンのような静かな都市で過ごすのも良いと思いました。

そしてミャンマーと同様に、ラオスも徐々に発展傾向にあるようです。きっと数年後に行くといくらか発展していると思いますが、地元の人々の優しさとその美しいメコン川の夕日はずっと続いてほしいと思います。

